

2019 年度 定例総会議事録

表記の総会が 2019 年 5 月 18 日 (土) 16 時 45 分より兵庫県神戸市神戸大学医学部会館シスメックホールにて岩崎会長を議長として開催された。出席 32 名, 委任状より表決権委任した者 74 名 (議長委任 60 名, 会長委任 1 名, 氏名のみ 13 名) で, 出席者合計が, 3 月 31 日の正会員数 426 名の 10 分の 1 以上となり、会則第 14 条 (平成 29 年 5 月 20 日総会で改訂した前の版) により総会は成立した。

I. 応用統計学会 2018 年度 事業報告 (2018. 04. 01~2019. 03. 31)

1. 概況

2018 年度は, 岩崎学 会長・中西寛子 副会長をはじめとする 15 名の理事, および鎌倉稔成, 栗木哲の両監事の体制で活動した。

財務状況はほぼ予算通り, 赤字の傾向であった。

2018 年度中の会員の入会, 退会状況は, 入会者数 16 名 2 件 (内訳: 正会員 14 名, 学生会員 2 名, 機関購読 (団体) 2 件), 退会者数 35 名 2 件 (内訳: 正会員 34, 学生会員 1 名, 機関購読 (団体) 2 件) であった。また今年度は, 長期会費未納計 6 名の除籍を承認した。

この結果, 会員数は 2018 年度末現在で 426 名である。内訳は正会員 412 名, 学生会員 8 名, 名誉会員 6 名である。また, 賛助会員 6 社, 機関・団体購読は 32 件である。

正会員, 学生会員と名誉会員を足した会員数の推移は次のとおりであり, 会員増への方策の検討が必要である。

	2012 年度末	2013 年度末	2014 年度末	2015 年度末	2016 年度末	2017 年度末	2018 年度末
会員数	532 名	526 名	501 名	521 名	499 名	451 名	426 名

2. 総会の開催

2018 年 5 月 19 日に総会を統計数理研究所 大会議室 (立川市) で開催した。

3. 評議員会

2018 年 5 月 19 日に定例評議員会を統計数理研究所 会議室 1 で開催し, 総会に付議する事項等について審議した。さらに今年度は会員に対して「応用統計学会の今後に関して」のアンケートを 9 月 30 日から 10 月 26 日の間に行い, その結果に関して 2 月 23 日に TKP スター貸会議室市ヶ谷 (千代田区) で開催し意見交換を行った。

4. 理事会

対面理事会を 7 回 (2018 年 5 月 (2 回), 7 月, 9 月, 11 月, 12 月, 2019 年 3 月), メール審議による理事会を 4 回, 計 11 回理事会を開催し, 学会の運営に関する事項, 会員の入退会に関する事項, 学会などの後援や協賛に関する事項について審議した。

5. 機関誌編集

「応用統計学」Vol.47 の No.1, No.2&3 の 2 冊を発行した。掲載原稿は 5 編 (フォーラム 1, 研究論文 4) および名誉会員エッセイ 2 編である。総ページ数の推移は次のとおりである。

巻	40	41	42	43	44	45	46	47	平均
総ページ数	209	152	195	57	187	122	176	128	153.3
論文数*	5	11	7	10	3	11	8	4	7.4

*掲載された記事の数（総合報告，研究論文，覚え書き，統計計算，フォーラム）

6. 応用統計学会論文賞の選考

「応用統計学」に掲載された論文から選考し，以下のように学会論文賞を授与した．表彰式および受賞記念講演を9月の連合大会で開催された企画セッション内で実施した．

優秀論文賞：佃 康司

ノイズ共変量に対するロバスト設計法 -- 機能性の測度を用いた方策 --, 46(1), 1-11.

奨励論文賞：*大久保豪人, 永田靖

グラフィカル・モデリングに基づくマハラノビス・タグチ法, 46(1), 13-26.

(*が受賞対象)

7. 年会

2015年から2018年まで3月に開催していた年会を，昨年度の年会で予告していたように2019年3月から2019年5月の開催に時期を変更した．従って，2018年度の事業報告では年会についての記載は行わず，来年2019年度の事業報告で2019年度年会の報告を行う．

8. フロンティアセミナーの開催

応用統計学フロンティアセミナー「データサイエンスによる「ものづくり」の革新」を，2018年5月19日(土)に統計数理研究所（大会議室）で行った．参加者数は82名（会員45名，非会員37名）であった．講演は以下のとおりである．

椿 広計 氏（独立行政法人 統計センター）

「データサイエンス時代の品と質のマネジメント」

吉田 亮 氏（情報・システム研究機構 統計数理研究所）

「マテリアルズインフォマティクスの最前線」

吉野 睦 氏（株式会社デンソー）

「ものづくりにおけるビッグデータの活用 ～異常検知と自律適応制御～」

当日の講演資料の一部を学会ウェブページにて掲載した．

9. 統計関連学会連合大会

統計関連学会連合大会を2018年9月9日～13日に中央大学で開催した（主催：応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会）．会場で応用統計学会の広報のブースを設営した．

参加者数は延べ1,275名（チュートリアル参加者数143名，市民講演会参加者数141名）であった．本学会の企画セッションとして，応用統計学会学会賞受賞式，受賞者講演（オーガナイザー：井元清哉（東京大），青木敏（神戸大））と，応用統計学会企画セッション「統計的因果推論—基本的なアイデアから最近の発展まで—」（オーガナイザー：黒木学（横浜国立大））を行った．

大会参加者総数とチュートリアルセミナー参加者の推移は次のとおりである．

年 度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
大 会	979名	1034名	776名	835名	836名	1275名
チュートリアルセミナー	238名	253名	232名	252名	170名	143名

※ 2018年の数字は統計関連学会連合大会のウェブページでの報告

10. 関連学会等との後援・協賛事業

合計7件（後援3件，協賛2件，共催2件）

（参考：2017年度：合計8件（後援1件，協賛5件，共催2件））

今年度に後援・協賛した行事は次のとおり。

- ・日本品質管理学会「Big Data, Data Science and Machine Learning についての特別講演会」（共催）
- ・慶應義塾大学 データビジネス創造ラボ「第8回データビジネス創造コンテスト」（後援）
- ・第21情報論的学習理論ワークショップ（IBIS2017）（協賛）
- ・情報処理学会「ソフトウェアジャパン2019」（協賛）
- ・金沢大学，統計数理研究所「国際研究集会（Pioneering Workshop on Extreme Value and Distribution Theories in Honor of Professor Masaaki Sibuya）」（共催）
- ・東京大学・横浜市立大学・早稲田大学 合同シンポジウム「大学におけるデータサイエンス教育の現状と未来」（後援）
- ・横浜市立大学データサイエンス学部 WiDS Tokyo @ Yokohama City University（後援）

11. 関連学会等への協力と協調

以下の各連合組織に当学会より担当する理事又は特別任務を担当する学会員を指名し，各委員会に出席するなど協調を行った。

(1) 統計関連学会連合

理事会（理事：岩崎 学 会長，中西寛子 副会長，理事長：栗原考次 会員），
事業委員会（青木敏 理事，井元清哉 会員，田栗正章 理事，橋口博樹 理事），

(2) 統計関連学会連合大会

2018年度大会

組織委員会（岩崎 学 会長，中西寛子 副会長）

プログラム委員会（星野崇宏前理事，南美穂子前理事），運営委員会（佃康司会員）

(3) 横断型基幹科学技術研究団体連合

2018年度 代議員（中西寛子 理事）

(4) 統計教育連携ネットワーク

連携学会として参加

(5) リスク研究ネットワーク

機関メンバーとして参加

(6) 統計検定（一般財団法人 統計質保証推進協会）

協賛学会として協力

12. ホームページおよびメーリングリストの充実

ホームページを逐次更新し，学会員への情報公開を円滑にした。また，メーリングリストによる情報公開を行った。

13. 名誉会員

2018年度の名誉会員については，公募の結果，清水良一氏，廣津千尋氏，柳川堯氏が名誉

会員となった。2019年度の名誉会員についても、2018年度中に公募を行った。

14. 会費滞納者への対応

会費滞納者については、2018年度も連絡を取り通知した。連絡の取れない4年以上の未納会員6名（正会員2名，学生会員4名）を除籍とした。

15. 会員に対するアンケート

2018年度は、9月30日から10月26日の間に会員に対して「応用統計学会の今後に関して」のアンケートを行った。

その結果に関して12月22日に東京理科大学神楽坂校舎(新宿区)において理事会を開催し、今後の学会運営に関して議論した。

さらに、2月23日にTKPスター貸会議室市ヶ谷(千代田区)にて臨時評議員会を開催し意見交換を行った。

これらの内容を会長メッセージとして評議員に報告し、その後、会員にメーリングリストにて発信した。

その他の事業については応用統計学会のホームページをご覧ください。

Ⅱ. 2018年度会計報告

1. 収入の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 会費収入	2,317,500	2,027,500	290,000
(1) 正会員	2,175,000	1,875,000	300,000
(2) 名誉会員	7,500	7,500	
(3) 学生会員	15,000	25,000	▲ 10,000
(4) 賛助会員	120,000	120,000	0
2. 雑誌売上収入	248,000	246,000	2,000
(1) 購読料収入	244,000	246,000	▲ 2,000
(2) バックナンバー売上	4,000	0	4,000
3. 広告料	60,000	90,000	▲ 30,000
4. 掲載料・別刷り・カラー印刷収入	390,000	130,000	260,000
5. 年会等関係収入	1,000	0	1,000
(1) 年会収入	0	0	0
(2) チュートリアル収入	1,000	0	1,000
(3) ワークショップ収入	0	0	0
6. 雑収入(著作権料・利息等)	58,228	120,000	▲ 61,772
当期収入合計	3,074,728	2,613,500	461,228
前期繰越金	6,969,937	6,969,937	0
収入合計	10,044,665	9,583,437	461,228

2. 支出の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 機関誌関係費	1,198,516	1,550,000	△ 351,484
(1)印刷費	778,356	1,100,000	△ 321,644
(2)校正費	150,000	150,000	0
(3)通信・発送費	270,160	300,000	△ 29,840
2. 年会等関係費	851,272	800,000	51,272
(1)年会支出	143,962	200,000	△ 56,038
(2)チュートリアル支出	468,348	460,000	8,348
(3)ワークショップ支出	44,000	40,000	4,000
(4)共催国際会議支出	0	0	0
(5)広報費	194,962	100,000	94,962
3. 管理費	1,022,983	990,000	32,983
(1)事務委託費	750,000	750,000	0
(2)消耗品費	36,202	50,000	△ 13,798
(3)会議費	130,932	80,000	50,932
(4)雑費	78,398	80,000	△ 1,602
(5)事務合理化費	7,560	10,000	△ 2,440
(6)選挙費	19,891	20,000	△ 109
4. 役員旅費補助	152,610	50,000	102,610
5. 関連学会協調事業費	70,000	120,000	△ 50,000
(1)関連学会年会費	70,000	70,000	0
(2)連合大会	0	50,000	△ 50,000
6. 学会賞	51,577	100,000	△ 48,423
当期支出合計	3,346,958	3,610,000	△ 263,042
収支差額(次年度繰越金)	6,697,707	5,973,437	724,270
支出合計	10,044,665	9,583,437	461,228

2019年度への繰越金の内訳

項目	2018年3月31日現在	2019年3月31日現在
銀行預金	1,554,842	385,905
郵便貯金	839,964	839,972
定額貯金	500,000	500,000
郵便振替	3,996,318	4,934,088
現金	78,813	37,742
合計	6,969,937	6,697,707

会計監査報告書

応用統計学会殿

応用統計学会会則に基づき、2018年4月1日より2019年3月31日までの会計経理を監査した結果、会計報告のとおり相違ないことを認めます。

2019年4月23日

監事

鎌倉 裕成
栗下 琢

Ⅲ 2019年度事業計画(2019.04.01～2020.03.31)

1. 機関紙の発行

「応用統計学」Vol. 48 を発行する。

2. 応用統計学会論文賞等の授与

「応用統計学」に掲載された論文の中から優秀な論文に学会賞（優秀論文，奨励論文）を授与する。また年会のポスターセッションの中から，優秀ポスター発表賞を授与する。優秀論文賞と奨励論文賞の各受賞者は統計関連学会連合大会における企画セッションで講演を行う。

3. 年会の開催

2019年は5月に開催した年会を，2020年も5月に開催の予定である。

4. 応用統計学フロンティアセミナーの開催

2019年10月19日に代ゼミタワー校舎13A教室（渋谷区）において標記セミナーを，代々木ゼミナールの協賛で開催する。テーマは「データサイエンスと応用統計学（仮称）」を予定している。

5. 統計関連学会連合大会での企画セッション

2019年度統計関連学会連合大会（応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会が主催）が2019年9月8日～12日に滋賀大学彦根キャンパスで開催される。企画セッションとして当学会は，

- ・応用統計学会シンポジウム「関数データ解析」

（オーガナイザー：二宮嘉行（統計数理研究所））

- ・応用統計学会学会賞授賞式，受賞者講演

（オーガナイザー：青木敏（神戸大学大学院理学研究科），

姫野哲人（滋賀大学データサイエンス研究科））

を企画運営する。

6. 研究集会

必要に応じてその他の研究集会を開催・支援する。

7. 学会員への情報公開

ウェブページやメーリングリストを活用して，学会員への情報公開を有効かつ円滑に行う。賛助会員の一覧をウェブページに作成する。

8. 広報活動

会員の募集のための広報活動を，連合大会（ブースの設置）や適切な媒体を使って行う。

9. 関係学会等との協調

以下の団体への加盟を継続し協力すると共に，その他関係学会との協調を促進する。

- (1) 統計関連学会連合
- (2) 日本計量生物学会
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）

- (4) 統計教育連携ネットワーク
- (5) リスク研究ネットワーク
- (6) 統計検定（一般財団法人 統計質保証推進協会）
- (7) データサイエンティスト協会

10. 名誉会員

名誉会員の公募と選考を行う。

11. 理事会, 評議員会, 総会の開催

5月18日（年会開催日）の昼休みに、評議員会を開催し、年会開催後に総会を開催する。総会時に名誉会員に対する審議を行う。

また、5月の総会后、9月の連合大会開催時、および適宜、理事会を開催する予定である。またメールによる理事会は必要に応じて開催する。

以上

IV. 2019年度予算

1. 収入の部

勘定科目	2018年度予算	2018年度実績	2019年度予算
1. 会費収入	2,027,500	2,317,500	2,012,500
(1) 正会員	1,875,000	2,175,000	1,865,000
(2) 名誉会員	7,500	7,500	10,000
(3) 学生会員	25,000	15,000	17,500
(4) 賛助会員	120,000	120,000	120,000
2. 雑誌売上収入	246,000	248,000	234,000
3. 広告料	90,000	60,000	60,000
4. 掲載料	130,000	390,000	320,000
5. 年会等関係収入	0	1,000	311,000
(1) 年会収入	0	0	166,000
(2) チュートリアル収入	0	1,000	145,000
(3) ワークショップ収入	0	0	0
6. 雑収入(著作権料・利息等)	120,000	58,228	96,000
当期収入合計	2,613,500	3,074,728	3,033,500
前期繰越金	6,969,937	6,969,937	6,697,707
収入合計	9,583,437	10,044,665	9,731,207

- ・1. 会費収入 …… 個人会員の会費納入率を(2017,2018年度実績に基づき)90%として
 正会員 …… 373名(414名×0.9)×5,000円=1,865,000円
 名誉会員 …… 4名(6名中の機関誌購入希望者数)×2,500円=10,000円
 学生会員 …… 7名(8名×0.9)×2,500円=17,500円
 賛助会員 …… 6件×20,000円=120,000円
- ・2. 雑誌売上収入 …… Vol.48の39部(32件)×6,000円=234,000円
- ・3. 広告料 …… Vol.48, No.1&2, No.3を発行予定として60,000円で算出
- ・4. 掲載料 …… 過去3年間の平均に基づき320,000円で算出
- ・5. 年会等関係収入
 年会収入 …… 過去3回(2018年3月, 2017年3月, 2016年3月)の平均に基づき算出
 チュートリアル収入 …… 計量生物学会主催の過去2回(2017年3月, 2015年3月)の平均に基づき算出
- ・6. 雑収入 …… 過去3年間の平均に基づき96,000円で算出

2. 支出の部

勘定科目	2018年度予算	2018年度実績	2019年度予算
1. 機関誌関係費	1,550,000	1,198,516	1,250,000
(1)印刷費	1,100,000	778,356	800,000
(2)校正費	150,000	150,000	150,000
(3)通信・発送費	300,000	270,160	300,000
2. 年会等関係費	800,000	851,272	621,000
(1)年会支出	200,000	143,962	308,000
(2)チュートリアル支出	460,000	468,348	13,000
(3)ワークショップ支出	40,000	44,000	100,000
(4)共催国際会議支出	0	0	0
(5)広報費	100,000	194,962	200,000
3. 管理費	990,000	1,022,983	1,120,000
(1)事務委託費	750,000	750,000	750,000
(2)消耗品費	50,000	36,202	50,000
(3)会議費	80,000	130,932	130,000
(4)雑費	80,000	78,398	90,000
(5)事務合理化費	10,000	7,560	10,000
(6)選挙費	20,000	19,891	90,000
4. 役員旅費補助	50,000	152,610	150,000
5. 関連学会協調事業費	120,000	70,000	120,000
(1)統計関連学会連合年会費	20,000	20,000	20,000
(2)横幹連合年会費	50,000	50,000	50,000
(3)連合大会企画セッション支出	50,000	0	50,000
6. 学会賞	100,000	51,577	50,000
小計	3,610,000	3,346,958	3,311,000
7. 予備費	5,973,437	6,697,707	6,420,207
当期支出合計	9,583,437	10,044,665	9,731,207

- ・1. 機関誌関係費 …… 2号分 (Vol.48, No.1&2とNo.3)として
 - (1)印刷費 …… 2018年度実績 (Vol.47, No.1とNo.2&3)に基づき, 2号分の印刷費75万円と電子ジャーナル作成料5万円で見積もり
 - (2)校正費 …… Vol.48, No.1&2を10万円, No.3を5万円
 - (3)通信・発送費 …… 2018年度実績に基づき算出
- ・2. 年会等関係費 …… 年会1回, チュートリアル1回, ワークショップ1回, および広報費として
 - 年会支出 …… 過去3回 (2018年3月, 2017年3月, 2016年3月)の平均に基づき算出
 - チュートリアル支出 …… 計量生物学会主催の過去2回 (2017年3月, 2015年3月)の平均に基づき算出
 - ワークショップ支出 …… 過去3回 (2018年5月, 2017年5月, 2016年5月)の平均 (6万円)に開催案内の印刷・発送の費用を加えて算出
 - 広報費 …… 2018年度実績に基づき算出
- ・3. 管理費 …… 2018年度実績に基づき算出
 - 雑費は2018年度実績に, 郵便振替の払込料金の値上りを考慮して算出
 - 選挙費は前回選挙があった2017年度実績に基づき算出
- ・4. 役員旅費補助 …… 2018年度実績に基づき算出
- ・5. 関連学会協調事業費 …… 統計関連学会連合年会費2万円, 横断型基幹科学技術研究団体連合年会費5万円と, 連合大会の企画セッションの予算5万円で見積
- ・6. 学会賞 …… 優秀論文賞 (3万), 奨励論文賞 (1万), 名誉会員証, 賞状, 証書フォルダ等

5. 学会賞の選考

第1次選考、第2次選考の結果、以下の論文が選出された。

優秀論文賞：

Vol. 46, No. 2, 67-86. (2017)

「連鎖方程式による多重代入法」

野間 久史

奨励論文賞：

Vol. 47, No. 2-3, 51-70. (2018)

「Max-Stable Process による年最大日降水量データ解析」

* 檜山 文音, 南 美穂子

(* : 受賞対象)

6. 名誉会員の推挙

田栗 正章 氏

推薦理由：

田栗正章氏は、長年、千葉大学に勤務され、優れた研究を積み上げられ、また後継者の育成にも貢献され、この間、理学部長も務められた。さらに、その後の勤務先である大学入試センターでは研究開発部長や試験・研究統括官という要職も歴任された。一方、応用統計学会の役職としては、1988-1989年度に庶務理事を、また、2006-2007年度に会長を務められ、応用統計学会の発展にも尽力された。

田栗氏は、長年にわたり、様々な統計学の応用分野の研究に従事してこれら当該分野の進歩に寄与した。特に、標本調査分野、大気環境分野、臓器移植分野、大学入試分野での評価は高い。さらに、近年は統計教育に関する諸問題への貢献は大きく、統計学の重要性を広く理解されるよう社会に対して活動された。研究面のみならず統計学の普及に関しても本質的な寄与をしている。

これらは特筆すべきであり、応用統計学会名誉会員になっていただく十分な理由があると判断できるので、ここに推薦する次第である。